

岩窪農場 | 自然豊かな栽培環境と、人と人が調和する持続可能な農業のカタチ



標高約850mの八ヶ岳南麓にある岩窪農場。朝夕の寒暖差が大きく野菜が育ちやすい土壌で、約30種類の野菜や米、果物、花が栽培されています。岩窪農場では、農業の担い手不足の解決と障がい者の社会参画を目指して、農福連携に取り組んでいます。

誰もが生きる喜びを感じながら働く。それがやがて地域の大切な資源になる。「農業」と「福祉」が連携することで「理想の地域」がうまれる。それが、岩窪農場が考える持続可能な農業のカタチです。

岩窪農場

IWAKUBO FARM in KOBUCHISAWA

水 稲：こしひかり、古代米、WCS

野菜類：いちご、アイコミニトマト、とうもろこし、ナス、キュウリ、ズッキーニ、オクラ、ピーマン、甘長唐辛子、じゃがいも、ネギバジル、さつまいも他、

葉物類、キャベツ・レタス類、ハーブ類

加工品：トマトジュース、トマトケチャップ、いちごジャム

当日はミニトマトほ場の見学と、直営の農園レストラン「オルト」で、山梨県のエシカル食材を使用したランチをご提供します。

オルトでは、岩窪農場の旬の野菜や果物を使ったイタリア料理を提供しています。見学会当日は、南アルプス連峰の美しい景色を眺めながら、採れたての野菜を使った料理をお楽しみください。

農業と食の現場から、山梨県のエシカル消費の取り組みをご紹介します。

～立ち寄りスポット～
道の駅こぶちさわ

農産物直売所では、岩窪農場をはじめとした山梨県産野菜のほか、代表品目ミニトマト(アイコ)の加工品を取り扱っています。

JA梨北 | 日本初！ 認証制度による4パーミル・イニシアチブ農産物のブランド化



南アルプス連峰と八ヶ岳の山々に囲まれ、ミネラルたっぷりの水と肥沃な大地に長い日照時間、おいしさを生み出す条件が整ったJA梨北のブドウ棚と田んぼ。ご案内するのは、ブドウとお米の二つの圃場。

JA梨北では、おいしさの先を行く取り組みをしています。

山梨県では、地球温暖化対策の取り組みとして炭素を土壌に貯留する「4パーミル・イニシアチブ」の取り組みをに国内の地方自治体として初めて参加しました。豊かな環境や果樹王国である強みを活かし、モモやブドウ、野菜、お米の栽培で、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを行っています。

4パーミル・イニシアチブとは、世界の土壌中の炭素量を年間4パーミル増加できれば、人間の経済活動によって増加する大気中の二酸化炭素が実質ゼロになるという考え方で、農業分野から脱炭素社会の実現を目指す取り組みです。



当日は、一般的に市場には流通しないワイン用ブドウの試食に加え、お米の乾燥・貯蔵・調製・出荷を担うカントリーエレベーターにて、ブランド米「梨北米」のいろはをお伝えします。



産地見学会の開催にあたって

エシカル消費とは、商品やサービスの選択の際のもう一つの要素であり、地域の活性化や雇用を含む、人・社会・地域・環境に配慮した消費行動です。私たち一人一人が、社会的問題に気付き、日々の買物を通して、その課題解決のために、自分が何をできるか考えてみるのが「エシカル消費」の第一歩です。

山梨県では、エシカル消費の取り組みをより多くの方に知っていただくため、料理人やメディアの方を対象とした産地見学会を開催しています。